

令和4年度
沖縄振興特別推進交付金

中南部都市圏駐留軍用地跡地利用 及び周辺整備検討調査業務委託

報告書(概要版)

令和5年3月

沖縄県

1. 目的

嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の返還が予定されている関係6市町村では、跡地利用に向けた取組みが進められているが、返還時期がそれぞれ異なり、また、取組みの熟度も異なっている。また、「広域構想」の策定から10年が経過し、社会動向の変化や周辺開発の動向等を踏まえて実現に向けた取組みが必要となっている。

以上の背景を踏まえ、本業務では、返還及び今後返還が予定されている嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の跡地利用に向けた取組み状況の整理と上位・関連計画や社会動向の変化等を踏まえた「広域構想」の現況整理及び成果検証を行うことを目的とする。

2. 返還及び今後返還が予定されている嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の跡地利用に向けた取組み状況の整理

(1) 嘉手納飛行場より南の6施設の検討状況等の把握・整理

① 各駐留軍用地の跡地利用に向けた検討状況の整理等

嘉手納飛行場より南の駐留軍用地の返還が予定されている6施設について、土地の先行取得状況、立入り調査の実施状況、周辺の開発動向、市町村の取組み状況について整理した。

項目	土地の先行取得状況	返還前の立入り調査実施状況	市町村の取組み状況	
キャンプ桑江南側地区	学校：4.5ha 完了 緑地：2.5ha 完了 広場：0.07ha 駐車場：1.3ha 完了	立入り調査なし	平成21年に基本計画を策定。10年経過した令和元年度に基本計画改定版を策定。	
陸軍貯油施設第1桑江タンク・ファーム	—	H22.9：文化財	上位関連計画の整理、現況整理からまちづくりの課題を整理。これらを踏まえ跡地利用方針案の検討、展開イメージを整理。	
キャンプ瑞慶覧	西普天間住宅地区	沖縄県 大学：0.2ha 完了 宜野湾市 大学：17.2ha 完了 緑地・公園：7.3ha 完了 墓地：2ha 完了	返還済み	平成31年1月に都市計画決定、同年2月に土地区画整理事業が認可された。令和2年4月より工事着手。
	インダストリアル・コリドー等	—	立入り調査なし	まちづくりの課題を整理し、それらを踏まえ跡地利用方針案の検討、展開イメージを整理。(北谷町) 今年度と次年度にかけて基本計画を策定予定。(宜野湾市)
	施設技術部地区内の倉庫地区の一部	緑地・公園：0.3ha 完了	返還済み	令和4年4月に組合区画整理事業発起人会が結成。地権者の意向を踏まえながら事業計画を決めていく予定。
	ロウワー・プラザ住宅地区	沖縄市 緑地・公園：1.0ha 北中城村 緑地・公園：1.1ha	立入り調査なし	これまでに整理した土地利用の課題及び対応について、関係機関と意見交換を行い、跡地利用計画(素案)の見直しに向けて取り組む。
	喜舎場住宅地区の一部	—	立入り調査なし	喜舎場スマートICのフルIC化等に向け、事業スキーム等を検討するとともに、地権者や民間事業者等の意見を反映した整備計画案を作成。
普天間飛行場	沖縄県 道路：13.9ha 宜野湾市 学校：10.9ha 児童厚生施設：0.0ha 幼稚園：0.0ha	H11～26：文化財(沖縄県) H13～25：文化財(宜野湾市) H15：自然(宜野湾市) R1：自然(沖縄県) R1.～4：文化財(沖縄県)	令和4年7月に跡地利用計画の中間成果の更新版である「全体計画の中間取りまとめ(第2回)」を県・市共同で策定。	

項目	土地の先行取得状況	返還前の立入調査実施状況	市町村の取組み状況
牧港補給地区	緑地・公園：17.4ha	立入り調査なし	令和3年度から跡地利用計画の策定に着手。令和5年度末に策定予定
那覇港湾施設	-	立入り調査なし	平成29年3月に跡地利用計画策定手順書（原案）策定。その後、地権者との合意形成活動（次世代の会定例会）を開催、地権者向け情報誌を発行。

(2) 関係6市町村への個別ヒアリングの実施

① 関係市町村ヒアリング

関係市町村の跡地利用の検討状況と課題、また跡地利用における「広域構想」の反映状況について、関係市町村へヒアリング調査を実施した。

市町村	日時	出席者
那覇市	令和4年11月21日(月) 13:15~14:00	・那覇市 総務部 平和交流・男女参画課 那覇軍港総合対策室 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
宜野湾市	令和4年11月25日(金) 13:15~15:30	・宜野湾市 基地政策部 まち未来課 ・宜野湾市 基地政策部 基地跡地推進課 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
沖縄市	令和4年11月30日(水) 10:00~11:00	・沖縄市 建設部 都市整備室 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
浦添市	令和4年11月21日(月) 15:30~16:30	・浦添市 企画部 西部開発局 跡地未来課 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
北谷町	令和4年11月29日(火) 14:00~15:00	・北谷町 総務部 企画財政課 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
北中城村	令和4年11月24日(木) 10:00~11:00	・北中城村 企画振興課 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
実施内容	1. 駐留軍用地の跡地利用に向けた検討状況 2. 広域構想に関する跡地利用の現況確認等	

② 地主会等ヒアリング

「広域構想」の地権者間における認知度や、地権者側からの跡地利用の状況等について確認するため、関係市町村の軍用地主会等に対しヒアリング調査を実施した。

地主会等	日時	出席者
宜野湾市軍用地等地主会	令和4年12月1日(木) 14:00~15:00	・宜野湾市軍用地等地主会 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
北谷町軍用地等地主会	令和4年12月7日(水) 10:00~11:00	・北谷町軍用地等地主会 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
チームまきほ21	令和4年12月13日(火) 11:00~12:00	・浦添市宇小湾郷友会(チームまきほ21) ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
キャンプ瑞慶覧ロウワーブラザ地権者会	令和4年12月15日(木) 10:00~11:20	・キャンプ瑞慶覧ロウワーブラザ地権者会 ・北中城村軍用地等地主会 ・沖縄県企画部県土・跡地利用対策課、調査業務共同企業体
実施内容	1. 広域構想について 2. 地主会の活動状況について	

(3) 跡地利用に向けた課題整理

嘉手納より南の駐留軍用地について、過年度に行った関係市町村担当者会議等の結果や関係市町村ヒアリングを踏まえ、跡地利用に関する意見・課題等について、①地区固有の課題、②跡地利用に係る共通の課題、③広域的な課題に分類し整理した。

また、④課題に対する事例紹介として、共通の課題の具体事例を2件抽出して整理した。

①地区固有の課題	地形や返還区域の制約等の跡地利用に影響を及ぼす個別の課題を整理
②跡地利用に係る共通の課題	立入り調査の実施、先行取得、緑地の確保等の跡地利用における共通の課題を整理
③広域的な課題	広域インフラや周辺市街地の連携等の各市町村の連携、協議及び調整を要する課題を整理
④課題に対する事例紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普天間飛行場の立入申請についての取組み状況 ・ 高圧鉄塔問題

3. 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想の現況整理及び成果検証

(1) 「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画」等の上位・関連計画の整理

① 上位計画等の整理

広域構想と整合すべき沖縄振興計画については、新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画を対象とし、今後の沖縄振興の取組方向として示された施策等のうち、中南部都市圏駐留軍用地跡地利用の役割、機能等、広域構想と整合を図るべき事項を整理した。

また、関連計画については広域構想の整備基本方針で整理されている項目（広域交通インフラ、広域的公園・緑地、産業・機能、土地利用）に関する計画を対象とし、広域構想と整合を図るべき事項を整理した。

		計画名	策定年月	策定者
沖縄振興計画		①新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画	R4. 5	沖縄県
県 計 画 等	広域交通 インフラ	②沖縄県総合交通体系基本計画	R4. 1	沖縄県
		③沖縄ブロック新広域道路交通ビジョン	R3. 3	沖縄ブロック幹線道 路協議会
		④沖縄ブロック新広域道路交通計画	R3. 3	
		⑤沖縄鉄軌道の構想段階における計画書	H30. 5	沖縄県
		広域的公園・ 緑地	⑥沖縄県広域緑地計画	H14. 3策定 H30. 3改定
	⑦緑の美ら島づくり行動計画		H24. 3	沖縄県
	産業・機能	⑧沖縄県アジア経済戦略構想推進計画	R3. 5改訂	沖縄県
		⑨第 6 次沖縄県観光振興基本計画	R4. 7	沖縄県
	土地利用	⑩第 5 次沖縄県国土利用計画	H30. 2決定	沖縄県
		⑪那覇広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）	R4. 11	沖縄県
		⑫中部広域都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（都市計画区域マスタープラン）	R4. 11	沖縄県

② 広域構想と整合すべき事項

「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」等から、今後の沖縄振興の取組方向として示された施策等のうち、中南部都市圏駐留軍用地跡地利用の役割、機能等、広域構想と整合を図るべき事項を整理し、中南部都市圏又は駐留軍用地に関連する新たなキーワードを以下の通り抽出・整理した。

【広域構想に反映すべき新たなキーワード】

- ・SDGsの推進
- ・カーボンニュートラルの実現に向けた取組み
- ・あらゆる分野におけるDXの推進、ICT等のデジタル技術の活用
- ・緑地環境の保全創出、景観形成、自然・文化の再生等に努め、沖縄らしい景観を次世代に引き継ぎ、時間とともに価値が高まる価値創造型のまちづくりを推進
- ・サステナブル/レスポンシブル・ツーリズムの推進
- ・アジアのダイナミズムを取り込む国際物流拠点の形成と、臨空臨港型産業の集積
- ・ポストコロナにおけるニューノーマル（新たな日常）への対応
- ・実証実験の場（テストベッド・アイランド）の推進

(2) 中南部都市圏駐留軍用地跡地利用広域構想の現況整理及び成果検証

上位・関連計画の状況や関係市町村ヒアリングの結果を踏まえ、広域構想を取り巻く現況の整理や、各駐留軍用地の跡地利用計画への広域構想の反映状況等の成果検証を行った。

① 広域構想策定の視点と全体コンセプト

【現況と課題】

■ 駐留軍用地跡地利用に期待されるまちづくりの方向性

- ・まちづくりの方向性について、具体的な検討がされている地区（キャンプ桑江南側地区、陸軍貯油施設第1桑江タンク・ファーム、インダストリアル・コリドー等、施設技術部地区内の倉庫地区の一部）、詳細について今後検討される地区（普天間飛行場、牧港補給地区）、未検討の地区（ロウワー・プラザ住宅地区、喜舎場住宅地区の一部、那覇港湾施設）がみられた。

② 広域構想の基本方針

【現況と課題】

■ 広域交通インフラの基本方針

【周辺地域との関係を踏まえた道路整備等】

- ・道路構造・配置等の検討が進められている跡地がある一方、道路計画の検討に着手できていない跡地もある。
- ・広域的な幹線道路は国または県整備となるため、各基礎自治体は適宜情報収集を行っている。

【沖縄鉄軌道の計画を踏まえた導入機能や公共交通システム等】

- ・基幹バス路線等や鉄軌道については国や県から詳細なルート等が公表されず、具体化な検討ができていない。
- ・令和5年度にパーソントリップ調査が実施される。

【歩行者ネットワーク、ウォークアブル等】

- ・導入機能や配置が決まらない中での歩行者ネットワークの検討着手が難しく、ほぼ検討されていない。

■ 広域的公園・緑地の基本方針

【広域構想に示される公園・緑地面積の確保等について】

- ・残存緑地及び斜面緑地を有する地区では公園・緑地の目標を達成することが可能な見込みとなっている一方で、残存緑地が少ない、または都市的土地利用が可能な地区では目標達成が困難と考えられている。

【上記の達成に向けた方策や、達成困難な理由】

- ・先行取得事業を行うにあたり財政的な課題がある。
- ・土地売却希望者の数が減少している。

<ul style="list-style-type: none"> ・返還時期が不確定な状況で軍用地を売却するメリットを説明できない。 <p>【緑のネットワーク形成に向けた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑のネットワークに関する具体的な検討はほとんど実施されていない。
<p>■跡地振興拠点の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの駐留軍用地においては、跡地利用が進んでいない中、現時点で産業振興や機能展開に関する検討が出来る状態ではない。 ・返還時期が不確定な状態では、企業側のニーズ把握が難しい。 ・市町村としては産業振興に関する役割分担を意識しているが、地権者にはまだ理解を得られていない。
<p>■土地利用の基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「公園・緑地」を最優先に確保することとされているが、「公園・緑地」を最優先とする地区の他、「住宅地」を最優先とする地区や、地権者の意向を踏まえ「商業・業務用地」を最優先とする地区もあった。 ・土地利用の優先順位や規模について、地権者と調整しつつ今後検討するという地区もあった。 ・ほとんどの市町村において、現時点で跡地振興拠点に関する検討をしていないという回答となった。

③ 「西普天間住宅地区」をモデルとした具体的検証

関係市町村ヒアリングおよび宜野湾市公開資料から、西普天間住宅地区における広域構想の成果について整理した。

駐留軍用地跡地利用に期待されるまちづくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの方向性（コンセプト）として、“沖縄健康医療拠点を核とした都市機能と水・みどり・文化の調和した住環境がつながるまち”を掲げており、「広域構想」での跡地利用の全体コンセプトにおける、“跡地振興拠点地区の形成による自立経済の構築”と“自然環境と歴史文化の保全・再生による豊かな都市環境の形成”に合致する。 ・「広域構想」のキャンプ瑞慶覧における整備コンセプトの一つである「地区内外の居住機能に必要な安心面での生活の質を支える健康・医療関連産業の導入」に合致する。
広域交通インフラの整備基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「広域構想」では広域幹線道路（中部縦貫道路）のルート上にあったが、計画が見直され地区内のルートは撤廃となった。
広域的公園・緑地の整備基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・広域構想で掲げる目標（地区面積 20%以上）に対し、先行取得事業で約 7.3ha を取得し約 22.7%を達成（うち先行取得率が約 63%）。
跡地振興拠点の形成方針	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄健康医療拠点を核としたまちづくりをコンセプトとしており、「広域構想」におけるキャンプ瑞慶覧で想定される産業タイプのうち、健康産業及び医療・生命科学産業と合致する。
土地利用の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「広域構想」においては、土地利用では公園・緑地の地区面積 20%確保を最優先とし、跡地振興拠点地区、その他（公共用地、商業地、住宅地）の順で優先するものとしている。 ・返還区域の約 50.8ha の内、沖縄健康医療拠点ゾーン（跡地振興拠点）が約 16ha、区画道路等を含めた住宅ゾーンが約 18～19ha、都市公園が約 11ha、墓地ゾーンが約 1ha という土地利用の内訳となっており、「広域構想」の方針と合致している。

(3) 跡地利用の方向性の検討

上位・関連計画及び関係市町村との意見交換を踏まえ、広域構想の「広域構想策定の視点と全体コンセプト」、「広域構想の基本方針」、「各返還駐留軍用地跡地の整備基本方針」に合わせて跡地利用の方向性の更新内容及び検討事項をとりまとめる

① 「広域構想」の更新ポイント

「広域構想」の現況及び成果検証を踏まえ、下記の赤字の内容について更新を検討する必要がある。

広域構想策定の視点と全体コンセプト													
<p>■中南部都市圏における駐留軍用地の役割と全体コンセプト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」の内容を踏まえ、「■圏域づくりにおいて期待される役割」のうち、7つのまちづくりの方向性に「カーボンニュートラルの実現」「DX、ICT等の先進的なデジタル技術の活用」「実証実験の場（テストベッド・アイランド）の推進」の要素を反映。 													
広域構想の基本方針													
<p>■広域交通インフラの基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図表の「広域交通インフラの整備基本方針図」について、「沖縄県総合交通体系基本計画」や「沖縄鉄軌道の構想段階における計画書」等を踏まえ、中部縦貫道路等の構想路線の見直し状況の反映及び鉄軌道を含む新たな公共交通システムのルートを変更。 													
<p>■広域的公園・緑地の整備基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園・緑地面積の確保等について更新事項は無い。但し、現状の公園・緑地面積の20%以上の確保について、現制度手法を前提にすると、一部の駐留軍用地において実現困難である状態にあることは留意する必要がある。 													
<p>■跡地振興拠点の形成方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」等を踏まえ、産業振興の方針における産業集積のイメージについて、下記のを追加。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>リーディング産業(タイプ)</th> <th>産業集積のイメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>リゾートコンベンション産業</td> <td>■滞在型リゾート産業(クルーズ観光)</td> </tr> <tr> <td>文化産業</td> <td>■文化観光(文化資源の観覧、体験活動)</td> </tr> <tr> <td>環境・エネルギー産業</td> <td>■脱炭素社会の実現</td> </tr> <tr> <td>スポーツツーリズム</td> <td>■スポーツ交流拠点、スポーツコンベンション拠点の形成</td> </tr> <tr> <td>海洋産業</td> <td>■ブルーエコノミー(海洋資源の保全・活用など)</td> </tr> </tbody> </table>		リーディング産業(タイプ)	産業集積のイメージ	リゾートコンベンション産業	■滞在型リゾート産業(クルーズ観光)	文化産業	■文化観光(文化資源の観覧、体験活動)	環境・エネルギー産業	■脱炭素社会の実現	スポーツツーリズム	■スポーツ交流拠点、スポーツコンベンション拠点の形成	海洋産業	■ブルーエコノミー(海洋資源の保全・活用など)
リーディング産業(タイプ)	産業集積のイメージ												
リゾートコンベンション産業	■滞在型リゾート産業(クルーズ観光)												
文化産業	■文化観光(文化資源の観覧、体験活動)												
環境・エネルギー産業	■脱炭素社会の実現												
スポーツツーリズム	■スポーツ交流拠点、スポーツコンベンション拠点の形成												
海洋産業	■ブルーエコノミー(海洋資源の保全・活用など)												
<ul style="list-style-type: none"> ・「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」等を踏まえ、機能展開の方針における具体的施設等のイメージについて、下記のを追加。(P20) <table border="1"> <thead> <tr> <th>機能の分野</th> <th>具体的施設等のイメージ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①国際協力・貢献機能</td> <td>■国際協力拠点(ESGに優れた環境の創造) ■国家プロジェクトを推進する受け皿としての場</td> </tr> <tr> <td>②産業支援機能</td> <td>■ICTを活用したアイランド・スマートグリッド ■アジアのダイナミズムを取り込む国際物流拠点、臨空・臨港都市 ■海外展開のビジネス交流拠点 ■国際情報通信拠点</td> </tr> <tr> <td>③研究開発機能</td> <td>■テストベッド・アイランド(実証実験・社会実装等) ■海洋調査・開発の支援拠点</td> </tr> </tbody> </table>		機能の分野	具体的施設等のイメージ	①国際協力・貢献機能	■国際協力拠点(ESGに優れた環境の創造) ■国家プロジェクトを推進する受け皿としての場	②産業支援機能	■ICTを活用したアイランド・スマートグリッド ■アジアのダイナミズムを取り込む国際物流拠点、臨空・臨港都市 ■海外展開のビジネス交流拠点 ■国際情報通信拠点	③研究開発機能	■テストベッド・アイランド(実証実験・社会実装等) ■海洋調査・開発の支援拠点				
機能の分野	具体的施設等のイメージ												
①国際協力・貢献機能	■国際協力拠点(ESGに優れた環境の創造) ■国家プロジェクトを推進する受け皿としての場												
②産業支援機能	■ICTを活用したアイランド・スマートグリッド ■アジアのダイナミズムを取り込む国際物流拠点、臨空・臨港都市 ■海外展開のビジネス交流拠点 ■国際情報通信拠点												
③研究開発機能	■テストベッド・アイランド(実証実験・社会実装等) ■海洋調査・開発の支援拠点												

② 「広域構想」の更新検討時期

「広域構想」の更新を検討する時期の参考として、上位・関連計画の改定や駐留軍用地の跡地利用計画策定等のタイミングが考えられる。そのため、上位・関連計画の計画期間と駐留軍用地の返還予定時期を整理した。

また、駐留軍用地については取組み段階に応じて、事業化段階（駐留軍用地返還済み。支障除去や土地区画整理等の事業に着手している段階）、計画段階（地権者の意見を反映し、跡地利用計画の策定に向けた検討に着手している段階）、構想段階（跡地利用計画に向けた取組を継続的に展開している段階）で整理した。

	～R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)	R11 (2029)	R12 (2030)	R13 (2031)	R14～ (2032)	
国家的な取組	脱炭素先行地域の創出				基本的施策の展開				SDGs 目標年度	脱炭素社会 実現	2050	
上位・関連計画等	新・沖縄21世紀ビジョン基本計画（R4～R13）											
	沖縄県総合交通体系基本計画（R4～R23）											
	沖縄ブロック新広域道路交通ビジョン（R3～R23）											
	沖縄ブロック新広域道路交通計画（R3～R23）											
	沖縄鉄軌道の構想段階における計画書（H30～時期未定）											
	● 第4回沖縄本島中南部都市圏パーソントリップ調査（R5）											
	沖縄県広域緑地計画（H14～R17）											
	沖縄県アジア経済戦略構想推進計画（R3～時期未定）											
	第6次沖縄県観光振興基本計画改定版（R3～R13）											
	第5次沖縄県国土利用計画（H30～R9）											
	那覇広域都市計画区域マスタープラン（R4～R17）											
	中部広域都市計画区域マスタープラン（R4～R17）											
嘉手納より南の駐留軍用地の返還予定時期	上位・関連計画及び跡地利用計画の反映・整合											
	キャンプ瑞慶覧 (西普天間住宅地区)	【H27.3 返還済】								事業化段階		
	キャンプ瑞慶覧 (施設技術地区内の倉庫地区の一部等)	【R2.3 返還済】										
	キャンプ瑞慶覧 (ロウワー・プラザ住宅地区)	【R6年度又はその後返還予定】								計画段階		
	牧港補給地区	残余の部分【R6年度又はその後返還予定】 倉庫地区の大半を含む部分【R7年度又はその後返還予定】										
	普天間飛行場	【R4年度又はその後返還予定】								構想段階		
	陸軍貯油施設 第1桑江タンク・ファーム	【R4年度又はその後返還予定】										
	キャンプ瑞慶覧 (インダストリアル・コリドー等)	【R6年度又はその後返還予定】										
	キャンプ瑞慶覧 (喜舎場住宅地区の一部)	【R6年度又はその後返還予定】										
	キャンプ桑江（南側地区）	【R7年度又はその後返還予定】										
	那覇港湾施設	【R10年度又はその後返還予定】										

③ 今後の取組について

今年度は跡地利用の検討状況の確認や課題等の共有、「広域構想」の現況整理及び成果検証等を踏まえ、「広域構想」の更新ポイントを示した。今後の取組について、以下に示す。

■ 「広域構想」の成果検証

- ・各地区の跡地利用検討の状況に応じ、引き続き成果検証に取り組む。

■ 「広域構想」の更新

- ・返還前の立入調査の実施や地区内の高圧鉄塔等、各地区が抱える跡地利用の課題等について引き続き情報共有を行う。
- ・更新ポイントをもとに、次年度以降も関係市町村と「広域構想」の更新内容について協議を進めていく。また、令和5年に実施されるパーソントリップ調査によって、中南部都市圏都市構造見直しの可能性があり、「広域構想」の基本方針と各駐留軍用地の役割に大きな影響があることから、その内容と整合を図りながら、「広域構想」の更新を検討していく。

(4) 「嘉手納飛行場より南の駐留軍用地跡地利用関係市町村担当者会議」の開催補助

沖縄県及び関係6市町村による、跡地利用における意見交換、情報共有のため「嘉手納飛行場より南の駐留軍用地跡地利用関係市町村担当者会議」（以下「担当者会議」という。）を開催した。

【開催日及び開催場所】

開催日：令和5年2月7日（火） 14：00～16：00

場 所：沖縄県三重城合同庁舎 自治研修所 4階 401・402研修室

【報告及び意見交換内容】

- ①跡地利用の検討状況及び課題
- ②「広域構想」の現況整理及び成果検証
- ③「跡地利用」の今後の方向性について